

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	衛星開発・実証プラットフォームの構築に必要な経費			担当部局庁	研究開発局		作成責任者	
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	宇宙開発利用課		宇宙開発利用課長 上田 光幸	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文部科学省組織令第七十二条			関係する 計画、通知等	宇宙基本計画			
政策	9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応			主要経費	科学技術振興費			
施策	9-5 国家戦略上重要な基幹技術の推進							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	宇宙基本計画に基づき、衛星の開発・実証等を戦略的に推進するために必要となる利用者ニーズや、国際的な政策動向・技術動向等を体系的に得ることを事業の目的とする。得られた調査結果については、政府の審議会等における将来の衛星等開発技術に関する政策議論へ活用するとともに、出口戦略を見据えた革新的な衛星技術等の開発テーマ設定に活用する。							
現状・課題 (5行程度以内)	宇宙開発の国際競争が厳しさを増している中、我が国の衛星の開発・実証等を戦略的に推進するため、各国の最新の政策動向・技術動向等を適時に把握するとともに、我が国が優位性を有する技術に対して、利用者ニーズに照らした施策を講じる必要があり、これらの動向について調査が必要である。							
事業概要 (5行程度以内)	我が国の衛星の開発・実証等を戦略的に推進するために必要となる利用者ニーズや、国際的な政策動向・技術動向等を体系的に得るため、観測衛星、通信衛星、衛星システム、宇宙探査・軌道上サービス等の分野ごとの最新技術の調査及び将来を見据えて今後必要となる技術の調査を実施する。例えば、観測衛星については観測衛星に搭載する観測センサの種類や観測方式に関する最新の要素技術等について、通信衛星については5G/6Gに向けた衛星通信システムや衛星間通信による宇宙ネットワークに関する最新の要素技術等について、衛星システムについてはオンボード処理技術や推進系技術の最新の国際技術動向等について、宇宙探査・軌道上サービスについてはスペースデブリ対策を含む今後の市場等が予測されるサービスや探査に必要な技術の最新の国際技術動向等について調査する。							
事業概要URL	-							
実施方法	委託・請負							
補助率等	-							
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	-	-	120.1	120.1	120.1	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	▲ 15	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	105.1	120.1	120.1		
	執行額(G)		-	-	-			
	執行率(%) =(G)/(F)		-	-				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		-	-				
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		研究開発推進費		-			
		(目)	地球観測技術等調査研究委託費	120				120
		(目)	諸謝金	0.10				0.10
		(目)	職員旅費	0.10				0.10
		(目)	委員等旅費	0.20				0.20
		(目)	庁費	0.03				0.03
			その他	▲ 0				▲ 0
	計(A)		120.1	120.1				

活動内容① (アクティビティ)		衛星開発にかかる技術調査を実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		衛星開発にかかる技術調査の実施	実施した調査課題数	活動実績	課題	－	－	5	－	－
				当初見込み	課題	－	－	5	4	5
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	今後政府の審議会における議論を経て、宇宙基本計画に基づく宇宙技術戦略が策定される予定である。調査結果については、政府の審議会等における将来の衛星開発技術に関する政策議論へ活用することとしていることから、この戦略策定に向けた政策議論において活用されることを成果目標とする。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 － 年度	
		衛星開発にかかる技術調査結果について、宇宙技術戦略策定に向けた政府の審議会等における政策議論において活用する	－	成果実績	回	－	－	－	－	
				目標値	回	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		宇宙基本計画に基づく宇宙技術戦略の策定に向けた政府の審議会において、本調査結果を活用して将来の衛星等開発技術に関する政策議論を実施した。 (参考)宇宙基本計画(令和5年6月13日閣議決定)抜粋 宇宙科学・探査に関する宇宙技術戦略策定に際しては、高度な宇宙科学・探査ミッション実現のため、科研費等による基礎的な研究の成果や産業界における技術の進展等に鑑み、政策的な優先度を勘案して、獲得すべき重要技術を宇宙技術戦略において特定する。								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	宇宙基本計画に基づき、衛星の開発・実証を戦略的に推進するために必要となる利用者ニーズや、国際的な政策動向・技術動向等を体系的に得ることを事業の目的としており、調査結果については、政府の審議会等における将来の衛星開発技術に関する政策議論へ活用することとしていることから、政府の審議会等における議論に活用された回数を成果目標とする。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		衛星開発にかかる技術調査結果について、政府の審議会等における政策議論へ活用する	衛星開発にかかる技術調査結果について、政府の審議会等における政策議論へ活用された回数	成果実績	回	－	－	10	－	
				目標値	回	－	－	5	－	
				達成度	%	－	－	200	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		－								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		調査結果は、宇宙基本計画に基づく宇宙技術戦略の策定に向けた政府の審議会における政策議論に活用するが、この政府の審議会は非公開であるとともに、目標設定時点で会議の開催回数などが未定であり、定量的な目標を設定することが難しいため。								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



